

日交研シリーズ A-746

平成 30 年度共同研究プロジェクト

「道路課金による財源調達、交通需要マネジメントに関する研究」

刊行：2019 年 4 月

## 欧米における道路課金・デジタルタコグラフ

### Policies on Road Charging and Digital Tachograph in EU and USA

主査：根本 敏則（敬愛大学教授）

Toshinori NEMOTO

#### 要 旨

諸外国で導入されつつある対距離課金は、道路利用量に応じて負担を求めるという利用者（受益者）負担原則の徹底、さらに混雑・環境外部不経済を課金額に反映させ、より外部不経済の少ない路線・時間帯へ交通を誘導するという交通需要マネジメントの方法として期待されている。

本研究プロジェクトの目的は、①対距離課金、交通需要マネジメントに関する諸外国の最新動向の把握、②対距離課金、交通需要マネジメントを支える技術開発動向、標準化作業の進展状況の把握、③わが国において課金などによる交通需要マネジメントを導入する際の課題の整理をすることである。

第 1 章、野口による「米国における道路課金」では、2019 年になり正式に導入が決まったニューヨーク市マンハッタンでの混雑課金について、導入の背景、混雑課金の具体的内容、収入の使途などについて整理した。また、橋梁の老朽化が深刻化しているロードアイランド州で維持修繕費用を賄うための大型車課金について、その概要を整理した。第 2 章、早川、野口、佐藤による「欧州における道路課金」では、ドイツにおける大型車対距離課金の最新動向、イタリアのフリーフローETC、ミラノの低排出ゾーン、EETS の最新動向などを整理した。第 3 章、倉橋による「欧米のデジタル・タコグラフ」では、タコグラフ義務化の意義を確認するとともに、デジタル・タコグラフを用いてどのような監視・取り締まりをしているか、実態を解説した。第 4 章、根本による「鎌倉のロードプライシングの課題」では、鎌倉での検討経緯、ロードプライシングの内容を解説したうえで、法定外普通税として導入する場合の公平性などの問題について検討した。

キーワード：道路課金、デジタル・タコグラフ、対距離課金、混雑課金、欧州委員会、アメリカ

Keywords : Road Charging, Digital Tachograph, Distance-Based Charge, Congestion Charge, European Commission, USA